

34 笙 鳩丸 1管 行円

鎌倉時代、寛喜3年(1231)  
 頭：江戸時代(17～18世紀)  
 6.6×8.5×42.5  
 凡管刻銘「寛喜三辛卯年八月作、行年七十三行円」

凡管に記された行円(1159～?)は、奈良の信貴山(朝護孫子寺)の僧で、笙の作者として知られている。頭は黒漆塗り、平日地に鳩8羽を金銀の高蒔絵で描く。御在来の品。



34

35 笙 春鶯丸 1管 行円

鎌倉時代、永仁3年(1295) 頭：江戸時代(17世紀末～18世紀)  
 7.0×9.0×51.5  
 凡管墨書「幾十反も(紙貼不明)声鳴してよ春の鶯、公明」  
 工管刻銘「永仁三乙未五月中旬、行円造之、鶯丸」  
 外箱蓋裏墨書「永仁三年、堯圓作、替頭添、但實徳祖先傳来品、  
 明治十五年十一月廿四日、正二位正親町實徳献上」

凡管に記された和歌の作者は、正親町公明(1813没)かと考えられる。頭は、金地、十文字にデザインされた松葉に唐草文の蒔絵がある。また替頭があり、こちらは黒漆地に鳳凰が蒔絵で描かれている。伝来には、替頭を使用する場合には「花蘭」の銘を用いるとある。



35

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

雅楽―伝統とその意匠美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 37

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十七年四月十六日発行

©2005, The Museum of the Imperial Collections